

# 人工林収穫予想表の更新(R6~R8年度)

## 現状

- 県内12万haの人工林は利用期を迎えており、間伐や主伐、再造林による森林資源の循環利用を計画的に進めるため、森林の現況把握と将来予測が必要。
- 森林吸収源対策（J-クレジット）において、森林の成長量が算定因子のひとつとなっており、「収穫表」がその基礎となっている。
- 福井県の収穫表が作成（昭和49年）されてから約50年が経過し、収穫表と現実林分の材積量等に乖離が生じている。

## 課題

- 現実林分に即した新たな「収穫予想表」の調製
- 航空レーザ計測データなど、ICT技術の活用による効率的な林分調査の実施

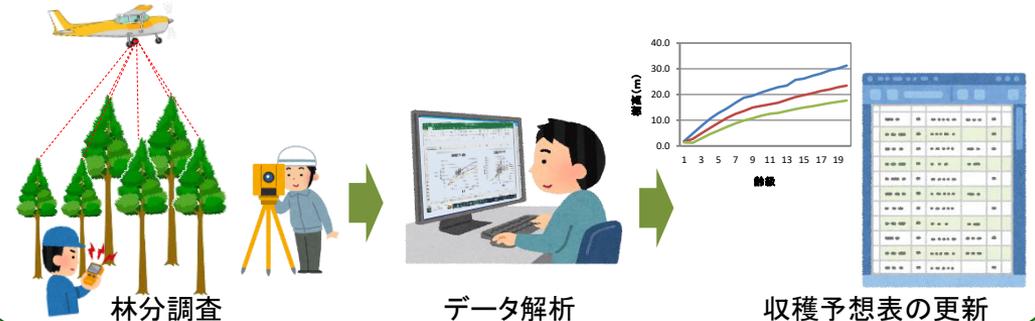
## 研究内容

### ① 林分調査(R6-R8)

- ・航空レーザ計測データ等による効率的な調査地の抽出（県下全域、若齢林から高齢林まで偏りなく抽出）
- ・デジタル機器等を活用した効率的かつ詳細な林分調査
- ・材質区分（A材、B材、C材）や獣害状況等の把握と森林情報への反映

### ② 収穫予想表の調製(R6-R8)

- ・林分調査データを蓄積し、解析を行うことで、現実林分に即した「収穫予想表」を調製、更新



## 目標および期待される効果

- ★ 森林経営計画の精度向上および森林施業の効率化（間伐の加速化、主伐、再造林の推進）
- ★ 森林資源の適正な把握、評価、管理（森林吸収源対策（J-クレジット）等での活用）